

1. 集計結果

○回答数

- ・保護者による評価 12人（12人中）
- ・職員による自己評価 9人（9人中）

○実施期間

- ・2021年12月25日～2022年1月15日

○評価の数値状況

- *別紙を参照

2. 分析・討議

○保護者による評価

- ・「活動場所の面積は適切であるか」「指導員の配置人数は適切であるか」「子どもにとって危険がともなうような、施設や備品の損壊などがないようにされているか」は、「はい」が12人ある。施設や備品の整備について評価されている。
- ・「虐待と思われるようなことがなくて、子どもを安心して通わせられるか」「火災や地震、感染症などの対策がなされているか」「個人情報の取り扱いに十分注意されているか」「子どもの育ちの状況を確認、保護者との面談もしながら、個別支援計画書が半年に1回は見直し、作成されているか」は、「はい」が12人ある。活動の条件整備について評価されている。
- ・「子どもに応じた活動が作り出されるとともに、屋内や屋外の活動、長期休業中の活動などが工夫されているか」「子どもは活動を楽しみにしているか」「活動に満足しているか」は、「はい」が12人ある。活動内容について評価されている。
- ・「入会するとき、運営規程、活動の内容、利用者負担などについて、ていねいに説明がなされたか」「保護者の思いや願いを汲み取るため、懇切に対応されているか」「保護者との面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取られているか」「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会がつけられているか」「苦情などの意見を寄せたときは、懇切に対応され、改善策をすみやかに伝えられているか」は、「はい」が12人ある。保護者との関係づくりについて評価されている。
- ・「会報などが定期的に作られて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりされているか」「親子行事、きょうだいの会など、保護者や家族が交流できる機会が工夫されているか」「保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくろうとされているか」は、「はい」が12人ある。その他の活動についても評価されている。

○職員による自己評価

- ・「利用定員は、指導訓練室などの面積との関係で適切であるか」「指導員の配置人数は適切であるか」「子どもにとって危険がともなうような、施設や備品の損壊・故障などはないか」「ガラス窓や照明器具などの破損によるガラスの飛散が起こらないような対策をとっているか」「子どもの行方不明や、部外者の勝手な侵入が起こ

らないような対策をとっているか」は、「はい」が9人ある。施設・設備の条件について評価している。

- ・「倫理綱領の策定、虐待防止委員会の設置、虐待防止責任者の選定をしているか」「虐待防止マニュアルを策定するとともに、虐待を防止するための研修を行なっているか」「防火・防災マニュアルを策定するとともに、火災・地震に対する訓練を定期的に行なっているか」「感染症予防マニュアルを策定しているとともに、感染症を予防するための研修を行なっているか」などは、「はい」が9人ある。活動の条件整備について評価している。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、早わかりしようとせず、(どうしてなのか)と、自らに問い続けているか」「子どもの“問題行動”に出会うとき、その内側に、その子の本当の願いが隠されていると考えて、内面を探ろうとしているか」「気持ちの育ち(人格の形成)には、その子固有のテンポがあるということを押さえて、子どもを理解しようとしているか」「子どもの発達は、ひたすら前進するのではなくて、新しい矛盾を抱え込むと押さえて、子どもを理解しようとしているか」「学校で頑張ってきたあとの活動という、生活の流れを意識して、子どもを理解しようとしているか」「大人の目の育ちにに応じてしか子どもは見えてこないという、自省的な意識をもって、子どもを理解しようとしているか」などは、「はい」が9人ある。「自分勝手な考え、思いを決して押しつけず、子どもの気持ちになって考える」「疑問を感じたとき、常に職員と相談して、よりよい関わり方をするようにしている」「子どもがする行動には、何か意味があるのではと常に考えながら目を配っている」という意見がある。子ども理解について評価している。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、傍観するのではなくて、働きかけて変化をつくりだし、理解しようとしているか」は、「はい」が7人、「わからない」が2人ある。「子どものことがわからないと感じたとき、独りよがりの判断をせず、ほかの職員に意見を聞くなどしているか」「子どもの“問題行動”に出会うとき、わが身に引き寄せるなどして、その理由を共感的に理解しようとしているか」「子どもの表面的な事ごらを並べるのではなくて、働きかけて、肯定的な事実をつくりだし、それを意味づけようとしているか」「遊びや生活をつうじて、子どもの気持ちの育ち(人格の形成)をはかっていくことを意識して、子どもに働きかけているか」は、「はい」が8人、「わからない」が1人ある。子ども理解や働きかけについて、反省的に振り返っている職員もいる。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」は、「はい」が3人、「わからない」が3人、「いいえ」が3人ある。「コロナ禍により参加できず」という意見もある。新型コロナウイルス問題も反映しているだろう。
- ・「子どもが入会するとき、運営規程、活動の内容、利用者負担などについて、ていねいに説明しているか」「保護者との面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取っているか」「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会をつくっているか」「保護者から、子どものことでの悩みなどの相談があったときは、懇切に応じているか」「会報などを定期的につけて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりしているか」「苦情などの意見が寄せられたときは、懇切に対応し、改善策をすみやかに伝えているか」などは、「はい」が9人ある。「保護

者の言葉の内側に込められた思いや願いを汲み取ろうとして、懇切に対応しているか」は、「はい」が8人、「わからない」が1人ある。保護者との関係づくりについて、おおむね評価している。

- ・「障害児相談支援事業所の担当者と連絡を取っているか」「学校の年間計画、行事、下校時刻、送迎の方法などを確認しているか」「学校の行事などに参加して、学校での子どもの様子を把握しようとしているか」「学校と支援会議などを行なって、子どもについて意見の交換を行なっているか」「協力をしてもらえる医療機関と協定を結んで、子どもの病気やケガなどに関する緊急の事態に対応できるようにしているか」などは、「はい」が9人ある。関係者・関係機関との連携について評価している。

3. 改善目標

○保護者による評価

- ・高い評価となっている。子どもが人間らしく豊かに育っていける活動を引き続き行なっていきたい。
- ・新型コロナウイルス問題のため、保護者会などの集団的な対応ができにくいものの、子どもが活動をつうじてどう育ってきたのかを、引き続き保護者に伝えていく工夫をしていきたい。
- ・新型コロナウイルス問題で、父母会（保護者の自主的な活動）が休止されているため、それに代わるような、保護者同士の交流の機会をどうつくるかを検討していきたい。

○職員による自己評価

- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」の項目以外は、ほとんど、高い評価となっている。子どもの内面を探って理解することを、引き続き重視したい。また、豊かな遊び・生活をいっそう創り出していきたい。そのためにも、事例検討する機会をつくりたい。
- ・新型コロナウイルス問題のため、外部の研修会への参加が難しくなっている。オンラインの研修会などへの参加をいっそう呼びかけていきたい。

4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2022年2月より）

○ホームページへの掲載（2022年2月より）